

古文 読解問題 「伊勢物語」 筒井筒 ①

昔、田舎わたらひしける人の子ども、井のもとにいでて遊びけるを、大人になりにければ、男も女も恥ぢかはしてありけれど、男はこの女をこそ得アメと思ふ、女はこの男をと思ひつつ、^①親のあはすれども聞かでなむありける。さて、この隣の男のもとより、かくなむ、

筒井筒井筒にかけしまろがたけ過ぎイにけらしな妹見ざるまに

女、返し、

比べ來し振り分け髪も肩過ぎぬ君ならずして誰か上ぐべき

など言ひ言ひて、つひに本意のごとくあひにけり。

さて、年ごろ経るほどに、女、親なく、頼りなくなるままに、もろともに言ふかひなくてあらむやはとて、河内の国、高安の郡に、行き通ふ所出できにけり。さりけれど、このもとの女、悪しと思へる^②氣色もなくて、出だしやりければ、男、^③異心ありてかかるにやあらむと思ひ疑ひて、前栽の中に隠れゐて、河内へ往ぬる顔にて見れば、この女、いとよう化粧じて、うち眺めて、

^④風吹けば沖つ白波たつた山夜半にや君がひとり越ゆらむ

と詠みけるを聞きて、限りなくかなしと思ひて、河内へも行かずなりにけり。まれまれかの高安に来てみれば、初めこそ心にくくもつくりけれ、今はうちとけて、手づから飯匙取りて、筍子のうつはものに盛りけるを見て、心憂がりて行かずなりにけり。さりければ、かの女、大和の方を見やりて、

君があたり見つつを居らエむ生駒山雲な隠しそ雨は降るとも

と言ひて見出だすに、からうじて、大和人、「来む。」と言へり。喜びて待つに、たびたび過ぎぬれば、

君来むと言ひし夜ごとに過ぎぬれば頼まオぬものの恋ひつつぞ経る

と言ひけれど、男住まずなりにけり。

問一 次の「伊勢物語」に関する知識についての問い合わせに答えなさい。

① 「伊勢物語」が成立した時代を答えなさい。

② 「伊勢物語」と同じ歌物語に含まれる作品を次の選択肢の中から全て選びなさい。

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| ア 竹取物語 | イ 土佐日記 | ウ 大和物語 | エ 源氏物語 |
| オ 平中物語 | カ 保元物語 | キ 落窪物語 | ク 増鏡 |

問二 傍線部ア～オの助動詞の意味を答えなさい。

問三 傍線部①「親のあはすれども聞かでなむありける」とあるが、その理由として最も適切なものを次の選択肢から選びなさい。

- ア 親の勧めた相手は遠方に住んでおり、女は家を離れたくなかったから
- イ 幼いころから親しくしてきた男を思い続けていて、他の相手と結婚する気がなかつたから
- ウ 女自身は親の勧めに従うつもりでいたが、周囲の人々が幼なじみの男を勧めてきたから
- エ 親の考えに反対することで自分の意志を示そとと考えたから

問四 傍線部②「氣色」の文中における意味として、最も適切なものを次の選択肢から選びなさい。

- ア 風景
- イ 様子
- ウ 気分
- エ 天気

問五 傍線部③「異心ありてかかるにやあらむと思ひ疑ひて」を「かかる」の意味を明確にして現代語訳しなさい。

問六 傍線部④「風吹けば沖つ白波たつた山夜半にや君がひとり越ゆらむ」に関する次の問題に答えなさい。

(1) この句に使われている修辞法を次の選択肢からすべて選びなさい。

- ア 枕詞
- イ 序詞
- ウ 掛詞
- エ 縁語
- オ 本歌取り

(2) この句の文法的な説明として適切なものを次の選択肢から選びなさい。

- ア 「ば」は接続助詞で、已然形に接続しているため「もし／ならば」と仮定の意味になる。
- イ 「つ」は連用形に接続しているため「完了」の助動詞と判断し「（）た」と訳す。
- ウ 「や」は疑問の係助詞で、結びの語である「らむ」は連体形になつている。
- エ 「らむ」は「過去推量」の助動詞で、「や」と結びついて「（）たのだろうか」と訳す。

読解問題「伊勢物語・筒井筒」① 解答・解説

問一 ① 平安時代前期

② ウ(大和物語)、オ(平中物語)

問二 ア 意志

イ 完了
ウ 意志
エ 意志
オ 打消

問三 イ

問四 イ

問五 浮気心があつて、不快に思う様子もなく(男を)送り出したのだろうかと思ひ疑つて

問六 (1) イ・ウ

(2) ウ